



	勝麟太郎	勝小吉
お順	お信	
山田まりあ	内海光司	里見浩太郎
	司葉介	

明治座正月公演あばれ獅子を観て

劇中にあるように麟太郎は少年期、犬に睾丸を嚙られて、生死の境を彷徨ったことがある。無頼の勝小吉が酒食を断ち、本所の能勢妙見で水行をとり、麟太郎の快復を祈った。小吉は気が違ったと噂されるほど狂気の愛情を注いだのである。後半の舞台一橋家への仕官の話があり、十五歳で勝家の当主になる場面等、経過報告に詳しい。

平成12年10月10日連載「暴れん坊のはぐれ御家人勝小吉」
 平成12年12月10日連載「十六歳で当主になった海舟」 参照

因みに往年の銀幕のスター阪東妻三郎さんが最後のワンシーンだけ残して亡くなられたのが、松竹映画「親子鷹」である。

